

# あいかんきょう

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



2018/1/1  
会報 第134号



## 「雪の白川郷」

撮影地 : 白川郷      撮影日 : 平成27年1月22日  
提 供 : 山盛 健司氏 (一般財団法人東海技術センター)  
コメント : 静寂な雪の中にたたずむ世界遺産『白川郷』の合掌造り集落です。

### 目 次

年頭挨拶(会長、愛知県知事) .....	2	環境セミナー 全国大会 in千葉 参加報告 .....	7
委員会活動報告 .....	3	第8次水質総量削減について .....	8
愛環協施設見学会に参加して .....	5	私の趣味 .....	9
愛環協施設見学会アンケート結果報告 .....	5	事務局からのお知らせ .....	10
環境計量士等研修会受講報告 .....	6		

## 四季折々

寒さが身に沁みる季節を迎えるたびに、暖かい南の島に思いを馳せる。その島は何度か訪れたことがある小笠原諸島。東京から南に1,000km離れた太平洋上に位置し、交通手段は週一便の定期船に限られ、片道24時間ほどかかる。年間を通して温暖な気候で、冬でも気温は20℃近い。マリンスポーツの鮮やかな海、独自の進化を遂げた固有種の生息地、時を忘れさせる満天の星空、訪れた誰もが小笠原の豊かな自然に魅了される。魅力的なのは豊富な自然だけではない。私が心奪われたのは、島民の自然を愛する心である。過去に何度も空港建設案が浮上しては消えた。そこには生活の利便性よりも自然保護を最優先した選択肢があった。▼2011年には世界自然遺産に登録されたが、

観光客増加で島の経済が活性化する一方で、環境悪化を危惧する島民の声が今もやまない。COP10開催後に生物多様性ブームがわき起こったが、時の流れとともに世間の関心が薄れゆく中、自然と共に生きる小笠原の人々にとっては、生物多様性は生活を支える基盤であり、生物多様性の保全は不可欠なのである。外来種対策、環境保全活動のエコツーリズム推進、生態系保護地域立入制限など、様々のルールを定めて自然保護に取り組んでいる。▼小笠原は船でしか行けない絶海の孤島。自然の美しさに癒されるだけでなく、自然の尊さと自然を守る大切さを教えてくれる貴重な島である。

文責: 糸魚川 広

## 年頭のご挨拶

一般社団法人愛知県環境測定分析協会  
会長 河野 達郎

\*\*\*\*\*



明けましておめでとうございます。

愛環協会員各位並びに賛助会員の皆様方、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

愛環協は、昭和52年8月9日に、愛知県環境測定分析業協議会として発足しました。

平成8年には全国県単の中で最初に社団法人化し、平成24年には一般社団法人に移行し現在に至っています。

昭和40年代後半は、公害が社会問題化し、多くの環境測定分析機関が誕生しました。それら機関の分析技術精度向上や技術者育成を主目的として都道府県の多くに測定分析協会が設立されました。それら協会の大半は、一般計量と環境計量が統合した組織であり、環境計量はその分科会のひとつでした。

一方、愛環協は環境計量の独立性が重要である、と判断し、環境測定分析機関だけで構成された協会を立ち上げました。このことは、その後の協会施策の企画運営において、愛環協が先進性を発揮し、全国の環境測定協会をリードする基盤となったのではないのでしょうか。協会設立当時にご尽力いただいた愛知県や設立メンバーの皆様の先進性にご苦労には、心から感謝を申し上げます。

愛環協40年の経緯につきましては、会報誌に8回(第124号～第131号)に渡って掲載された濱地光男前会長(現顧問)による「私の履歴書」～愛環協、日環協の協会活動を振り返って～をご一読いただければと思います。

さて、昨年は、愛環協創立40周年を迎え、7月には盛大に記念式典を開催させていただきました。開催にあたり、愛知県環境部様、そして産業労働部様には愛環協から感謝状を贈らせていただきました。協会の会員である計量証明事業所を監督する立場の県の方に感謝状を贈るという事に対し、はじめは少し違和感と言うか僭越なのではないかと考えておりました。しかし、大野副会長から、『私たち会員は、環境と言う公共の資産に対し確実な測定データを提供するという社会的意義を有しており、しっかり監督していただくことで常にその意識を持ち続けることになり、愛環協だからこそ愛知県に対し感謝状を贈る意味があります。』と仰っていただいたことで決断することができました。

愛環協は、これからも会員自ら身を引き締めて良き仲間、良きライバルとして共存して参ります。そして、国内外の情報提供や県の枠を超えた交流や連携も活発にして参ります。

最後に会員並びに、ご支援を賜っております関係各位の益々の発展と昨年にも増して良き年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

\*\*\*\*\*

## 新春を迎えて

愛知県知事 大村 秀章

\*\*\*\*\*



あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様方にとりまして、素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、愛知総合工科高等学校専攻科の公設民営化や、遠隔型自動運転システム

の実証実験、「あいち航空ミュージアム」のオープンなど、全国初となる取組、愛知ならではの取組に果敢にチャレンジし、大きな成果を上げるとともに、アメリカのケンタッキー州やインディアナ州、ベルギーの3地域、インドネシアの経済調整担当大臣府とそれぞれ相互協力等の覚書を締結し、海外とのパイプを一層強固にした1年でした。

また、世界に誇る日本のオリジナルコンテンツであるスタジオジブリ作品をテーマとした「ジブリパーク構想」の具体化に向け、大きな一歩を踏み出した年でもありました。

今年も、様々な取組を積極的に進め、愛知の総合力に更なる厚みを加えていくとともに、未来へと続く取組を、愛知の発展の種として、しっかりと芽吹かせ、着実に育んでいく1年にしてまいります。

そのためには、2027年度のリニア開業に向けた鉄道・道路ネットワークの強化など、中京大都市圏づくりを着実に前進させるとともに、次世代自動車、航空宇宙、ロボット・AIなどの次世代産業の育成・振興、企業立地の促進、中小企業支援、農林水産業の国際競争力の強化、愛知の魅力の発信と観光振興、来年秋開業を目指す国際展示場の整備などに取り組み、愛知の産業競争力を一層強化してまいります。

また、ジブリパークについては、愛・地球博記念公園での2020年代初頭の開業を目指し、夢とファンタジーあふれるジブリの世界を再現したオンリーワンの施設を創り上げていけるよう、しっかりと取組を進めてまいります。

そして、こうした取組以外にも、認知症にやさしいまちづくりを目指す「オレンジタウン構想」や子どもの貧困対策の具体的な取組の推進、スポーツ・文化芸術の振興、教育・人づくり、地震津波対策や交通安全対策、「環境首都あいち」の取組、東三河地域の振興などに力を注ぎ、「日本一住み

やすい愛知」づくりを進めてまいります。

今年も、「日本一元気な愛知」「すべての人が輝く愛知」の実現を目指し、県民の皆様に、笑顔で元気にお過ごしただけよう全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成30年元旦

## 委員会活動報告

### ◆総務委員会

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

平成29年度第3回の総務委員会を12月13日に開催し、平成30年度向け「環境に関する喚起標語」の募集案について検討いたしました。次年度の作品テーマは「ひと(技術者)づくり」です。皆様の素晴らしい作品をお待ちしております。入賞者には賞状と副賞が贈られ、特選作品は次年度の喚起標語とさせていただきます。応募要領をご確認の上、1月26日までに奮って応募ください。結果は、会報135号にて発表いたします。また3月には「景況調査」の実施を予定しております。お手数ですが協会の発展のため、ご協力を頂きますようお願いいたします。

総務委員長 大野 哲

### ◆企画・対外交流委員会

10月26日に施設見学会を行いました。事前に委員会を開催し、役割分担や進捗状況などの確認をして無事に充実した見学会を行うことができました。名古屋大学減災館の他、博物館、ノーベル賞展示室などを見学いただきました。詳しい内容につきましては、本誌に掲載の「見学会報告」並びに「アンケート結果報告」をご覧ください。見学会後の交流会では若い同世代の方も多く参加いただき、参加者同士の交流も深まったものと思います。

今後とも有意義な企画を計画しますので、会員の皆様のご参加をお願いいたします。本年もよろしくお願い申し上げます。

企画・対外交流委員長 角 信彦

### ◆教育研修委員会

11月10日に環境計量士等研修会を開催しました。参加者38名が①「騒音振動の規制と相談について～愛知県の状況と取組～」として県の現状や規制を中心に、続いて②「水銀に関する廃棄物処理法施行令等の改正について」より水銀に関わる新たな措置や対応を、③「ICP-AES及びICP-MSの正しい使い方について」からICP分析の原理と干渉対策そして分析の実際を、④「騒音計、振動レベル計の計量法特定計量器検定検査規則

の改正について」及び「『風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル』で要求される測定器について」から検定公差や変更された制度そして風車騒音測定システムなどを熱心に学びました。

本年1月24日にSOP研修会を予定しています。多数のご参加をお待ちしております。

教育研修委員長 服部 寛和

### ◆広報委員会

平成29年度第3回の広報委員会を10月27日に開催し、会報誌「あいかんきょう」(134号)の編集内容を決定するとともに、4月発行予定の135号についても編集方針について検討を行いました。

今回の134号は、新春号として会長及び愛知県知事の年頭挨拶を掲載します。また、愛知県環境部水地盤環境課のご協力のもと、「第8次水質総量削減について」を寄稿していただくことになりました。

従来記事以外の記事ネタ探しは大変ですが、目新しい記事をできるだけ紹介し、会員皆様に親しみを持っていただける会報誌の作成を目指して参ります。

広報委員長 林 辰哉

### ◆技術委員会

＜水質・土壌ワーキング＞

模擬排水中の亜鉛及び全クロムを対象とした第1回共同実験の検討会を日本特殊陶業市民会館にて12月4日に開催しました。参加者は29名(県外4名)で、結果報告後、5～6名のグループに分かれて今回の分析での疑問点などのディスカッションを行いました。また、今回の内容および希望する共同実験の項目についてアンケートを行いました。

＜騒音・振動ワーキング＞

平成29年度勉強会を本年2月に実施する予定です。1月に参加募集の案内を行いますので、楽しみにお待ちしております。

勉強会の内容については、振動に関する基礎的な事項について予定しており、現在その内容について検討中です。また、合わせて、振動や騒音の調査に関する疑問、失敗事例等について事例紹介等の意見交換会を行い、他社のお話を聞く機会も設けたいと思います。

奮って、ご参加いただきますようお願いいたします。

＜大気・臭気ワーキング＞

去る12月1日、石川県環境計量協会主催 日本環境測定分析協会中部支部協賛 平成29年度環境計量研修会が石川県金沢市にある金沢市歌劇座(大集会室1)で行われました。悪天候の中でしたが、環境計量事業所や自治体関係者など70名が参加されました。



そこで、今回愛環協、日環協中部支部で実施しました第2回共同実験模擬試料中粒子状水銀濃度測定の間接報告を速報として報告しました。

その内容については下記の4つになります。

#### 1. 共同実験とは

今回初めて共同実験というものを聞かれた方や初めて参加された方も多いと思い、愛環協で行なっている共同実験について説明させていただきました。

#### 2. 共同実験前のアンケート結果

共同実験参加募集時に4項目のアンケートを実施し、その結果について報告させていただきました。

#### 3. 共同実験後のアンケート結果

共同実験後に今回の実験で使用した測定機器や分析条件などを5項目アンケートし、その結果について報告させていただきました。

#### 4. 共同実験結果 中間報告

平成30年1月12日実施予定の結果報告会及び意見交換会の内容に沿ったものを速報として報告しました。時間的に考察やアンケート結果の詳細データが含まれていないものとなっています。

この報告会で質問が1つありました。

・共同実験結果より、「予測値と報告値を比較した場合、10%程度報告値が低い値となった。」

このことは、大気臭気技術委員でも話し合いを実施して、それを考察にまとめていることをお伝えしました。



環境計量研修会の様子

報告会の後、懇親会へ参加。このときには雨も上がり、少し寒かったですが、懇親会は40人の参加となり、仕事上のことから個人的なことまでさまざまなことについて話し合いがあり、非常に活発な意見が出る懇親会でした。

懇親会中、今回の共同実験について出た内容を報告します。

・「今回の共同実験の速報を聞いて、考察などを早く見てみたい。」

・「詳細データで自社の分析機器や条件と他社の分析機器や条件を比較検討したい。」

これらのご意見については、詳細データは作成してあることをお伝えし、1月12日の報告会資料で確認をお願いしました。

・「今回の共同実験については低濃度分析が要求されていると思われ、各事業所の実験室内でのコンタミの可能性を考察に入れたらどうか。」

というご意見をいただき、考察に入れていこうと考えています。

・「過去の共同実験についても興味を持ちました。」

というご意見もいただきました。

それから、次のような壮大なご意見もありました。

「今回の共同実験と同じ内容で、全国規模の実験開催をして下さい。」

今回の石川県での環境計量研修会に参加して、第2回共同実験に対して興味を持ったという意見を多くいただきました。今後のこのような他府県主催の活動について、積極的な会活動ができるようになれば、環境計量事業所間の横のつながりができていくのではないかと思います。

技術委員長 波多野 群樹

### ◆ホームページ委員会

平成29年度第4回ホームページ委員会を10月30日に開催いたしました。第4回の委員会では、河野会長より協会ホームページとホームページ委員会の役割・在り方について、基本的な考え方の説明をして頂きました。

ホームページ委員会は、協会の基礎情報の発信、委員会活動の発信を広報委員会と連携を図り、協会ホームページによるリアルタイムな情報発信を中心に活動することが確認されました。今後も協会情報発信の実施の方法について検討を重ねていくこととなりました。

次月のホームページ更新作業は11月30日に実施予定。次回の委員会は12月26日に決まりました。

ホームページ委員長 金田 哲夫

### ◆災害緊急時対応委員会

平成29年度は、昨年度に引き続き2回目となる愛知県との合同測定訓練に参加いたしました。次年度も愛知県環境部環境活動推進課様をはじめとして災害時の測定訓練に参加し、災害緊急時における環境面での危機管理対応に協力できる体制の整備に努めてまいります。

また、東海・東南海地震等の巨大地震の発生に備えてBCP(事業継続計画)を構築することは、危機管理対応への協力のみならず各会員の事業継続にとって不可欠であります。各会員におかれましても、より有効性の高いBCPの構築と運用を進めていただきますよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

災害緊急時対応委員長 林 昌史

## 愛環協 施設見学会に参加して

株式会社ユニケミー 志治 豊吾

平成29年10月26日、企画・対外交流委員会の企画である「平成29年度 施設見学会」が開催されました。

訪問先は「名古屋大学減災館」(名古屋市千種区不老町)他です。参加者は、角企画・対外交流委員長をはじめ、総勢9社17名でした。



名古屋大学 減災館

名古屋大学減災館では、第23回特別企画展『人々が書き残した震災―濃尾地震と昭和東南海地震』が開催されており、最初に名古屋大学減災連携研究センター講師、都築充雄氏によるスペシャルギャラリートーク『『紅の血は燃ゆる』学徒勤労動員の記録から見る昭和東南海地震』を聴講しました。東海東南海地震の発生が懸念される中、1944年(昭和19年)12月7日午後1時36分に発生した、熊野灘を震源とするM7.9の巨大地震(最も新しい南海トラフ巨大地震)について、被災された方々や地震直後に被災地を目の当たりにした人々の書き残した記録や回顧談を交え、それらから見えてくる地震とその被害の特徴について考えました。

続いては「みて、さわって、減災を学ぶ」というコンセプトのもと、館内の展示を参加者全員で“体験”し学びました。

その後の自由見学では、「名古屋大学博物館」、「2008ノーベル賞展示室」、「2001ノーベル賞展示室ケミストリーギャラリー」など、時間の許す限りキャンパス内を歩き回りました。

最後は場所を移し懇親会を開催しました。なかなかお会いする機会の少ない参加者の皆さんですが、美味しい食事を囲んで会話も弾んでいました。

10月下旬とは思えないほどの暖かな一日、大きなトラブルも無く、予定どおり見学会を終えることができました。今後も会員の皆様に視野・見聞を広げていただくための場として、施設見学会を企画・開催していきたいと思っております。

## 愛環協 施設見学会アンケート結果報告

株式会社テクノ中部 氏原 和彦

見学会のアンケートを13名の方から提出頂き、充実した見学会となった様子が窺えます。代表的なご意見を紹介します。

## 1. 名古屋大学減災館

- 大変良かった 8名
- まずまず良かった 4名
- 無回答 1名

- ・東南海地震が実際に発生した昔のお話を聞いて、自身の会社や家族の身にどのようなことが起こるか、より現実的に考えられるようになり、良かった。
- ・模型を動かして地震の揺れ方や災害の発生過程を見ることができるためとても分かり易い展示だと感じた。
- ・過去の震災の記録を生かし、現在の震災対策が立てられている事が分かった。また、地震や液状化の原理や、地震の体験も分かり易く学べて良かった。
- ・ギャラリートークの中でお話のあった通り、「日常」に追われるあまり発生確率の低い「非日常」への備えが不十分だと認識できた。発生した際のリスクの大きさを考え、仕事、プライベートに生かしていきたい。
- ・ギャラリートークがとても良かった。半田市という身近な場所で、しかも戦時下において東南海地震の被害があったことを初めて知った。災害の歴史から学ぶ教訓について大いに考えさせられる内容であった。



都築先生によるギャラリートーク

## 2. 各自、自由見学で立ち寄った施設

## ①2008ノーベル賞展示室

- ・実際のノーベル賞メダルのレプリカや本物のメダルを鑑賞でき偉大な実績を色々な角度から感じることができた。

## ②名古屋大学博物館

- ・恩師が携わったクジラの骨格標本が展示されており、この機会に見ることができて良かった。また、発光ダイ

オード(LED)や誕生石、化石、ムラージュなども展示されていた。博物館も減災館と同様に、標本や展示を触ることもでき、体験型の展示は楽しいと思った。



館内の展示物

### 3. 全般を通じて

- ・施設見学会はもちろん、懇親会もとても有意義な時間を過ごすことができた。
- ・見学会に参加することで新しい知識が身につき、改めて学ぶ良い機会だと感じた。また、同業で同世代の方も多く参加し、交流を深めることができたのも良かった。

その他頂いたご意見と合わせて、次回の参考といたします。参加者、関係者の皆さま、ありがとうございました。



参加された皆様

説明頂きました。

愛知県環境部資源循環推進課主任主査・中根知康様による「水銀に関する廃棄物処理法施行令等の改正ついて」では、廃水銀等、水銀含有ばいじん等及び水銀使用製品産業廃棄物の各々における改正内容をご説明頂きました。水銀等廃棄物処分の際には適正に処理されるよう処理業者への情報提供を確実に実施したいと思います。

環境省環境調査研究所教官・藤森英治様による「ICP-AES及びICP-MSの正しい使い方」では各装置の原理・装置構成から使用上の注意点や干渉等の問題点・対策等をご説明頂きました。普段から分析研修の教官をされていることもあり非常に丁寧でわかりやすく、また事前アンケートで寄せられた質問事項においても講演に盛り込んでいただき、今後の分析技術の向上につながる内容でした。

リオン株式会社開発部音響振動計測器開発課・尾崎徹哉様による「振動計、振動レベル計の計量法特定計量器検定検査規則の改正について」では特に変更点にポイントをしばり説明していただき、旧基準の騒音計及び振動レベル計は今後順次使用できなくなるとの情報を頂きました。『「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」で要求される測定器について』では環境省のマニュアルに適応した測定システムをご紹介いただきました。

研修会の冒頭では愛環協教育研修委員長・服部寛和より本研修会を幅広い周知・教育の場とし、信頼性の確保・徹底のため品質向上及び技術継承に役立ててほしいとお話がありました。また、愛知県環境部環境活動推進課課長・川村雄司様からは環境を守る環境計量証明業務にやりがいをもって取り組んでほしいとお言葉を頂き、変化していく顧客のニーズに応えるため最新の情報収集、分析技術の維持向上及び精度管理に努めていきたいと思いました。

研修会に参加し、大変有意義な時間を過ごすことができました。有難うございました。

## 環境計量士等研修会 受講報告

株式会社三井化学分析センター

名古屋事業所 加藤 伸子

平成29年11月10日に開催されました、「環境計量士等研修会」につきまして報告させていただきます。

愛知県環境部大気環境課課長補佐・石垣雄大様によりご講演頂いた「騒音振動の規制と相談について～愛知の状況と取組～」では、公害苦情における発生件数の動向及びそれに対する愛知県の対応状況や感覚公害(騒音、悪臭、振動)についての法規制及び対策等詳しくご



服部 教育研修委員長 挨拶





研修会の様子

\*\*\*\*\*

## 環境セミナー 全国大会 in千葉 参加報告

一般財団法人東海技術センター 木村 直樹

\*\*\*\*\*

平成29年度第25回日環協・環境セミナー全国大会 in千葉が、平成29年10月12日、13日の2日間にわたって、(一社)日本環境測定分析協会(以下、日環協)及び日環協関東支部の主催によりTKPガーデンシティ千葉(千葉市)にて開催されました。千葉県環境計量協会、全環境企業年金基金の開催協力のもと358名の参加者を集め、企業展示には44社からの機器・カタログの出展があり、会場内は活気に溢れた雰囲気となっていました。



日環協 松村会長 挨拶

開会式後の特別講演では、環境省水・大気環境局大気環境課長兼自動車環境対策課長の高澤様より新たに批准された水俣条約に関連する水銀規制の動向や、大気汚染防止法を踏まえた石綿飛散防止対策等を含めた、大気環境行政全般についてご講演いただき、その後(公社)日本作業環境測定協会専務理事の飛島様より、環境分析事業者における化学物質管理について、労働安全衛生法の観点から、作業者の化学物質曝

露に対する日常のリスク管理のあり方をお話いただきました。特別講演の最後には観察対象物から離れた場所から情報を得る手段としてリモートセンシングを利用し、衛星・地上の両面から地球大気環境を観察した結果について、ダイナミックな映像を交えながら千葉大学環境リモートセンシング研究センターの入江准教授よりご講演をいただきました。特別講演3題の終了後、緊急報告として豪雨により被災した北部九州地区の被災者の方々への支援活動を実施した日環協九州支部から、支部長の中田様より支援活動の内容と課題について報告がありました。

技術発表は5会場に分かれて、計32題の発表が行われました。新たな試みとして技術発表の合間に日環協の各委員会が活動報告、展示企業が企業プレゼンテーションを実施する時間が設けられ、各会場とも多くの聴講者で満席に近い状況でした。



技術発表

技術発表に引き続いて行われたランチョンセミナーは、ビーエルテック(株)、アジレント・テクノロジー(株)、(株)パーキンエルマージャパンの3社により開催されました。

公式行事の最後には、松村会長により「日環協と国際標準化機構(ISO)」と題した特別講演がありました。

世界の人口分布と地域ごとのGDP割合、その中から推定する分析の売上といった話題から始まり、貿易障壁を撤廃する方向に世界が進んでいる中で、国内も今後一層、様々な分野でISO規格の導入は進んでいき、国内ルールであるJIS、更には計量証明事業の根幹である計量法の在り方も問われていくのではないかという内容でした。

日環協全国大会は、日常では触れる事が少ない業界を取り巻く新しい話題や、忘れてしまいがちな基礎的な情報を、日常業務の喧騒から離れて立ち止まり、思い出すことが出来る機会であり、毎年参加するたびに印象に残る出来事があります。

\*\*\*\*\*

## 第8次水質総量削減について

愛知県環境部 水地盤環境課 西村 ゆかり

\*\*\*\*\*

水質総量削減制度は、人口及び産業の集中等により、生活または事業活動に伴い排出された水が大量に流入する広域的な閉鎖性海域（東京湾、伊勢湾、瀬戸内海）の水質汚濁を防止するため、水質汚濁防止法に基づき、すべての汚濁発生源からの汚濁負荷量の総量を、総合的・計画的に削減し、当該水域の環境基準の達成を目途とする制度です。なお、汚濁負荷量を表示する指定項目として、化学的酸素要求量(COD)、窒素含有量及びりん含有量が定められています。

水質総量削減制度においては、環境大臣が、削減の目標、目標年度、その他汚濁負荷量の削減に関する基本的な事項を総量削減基本方針（以下「基本方針」という。）として定めます。都道府県知事は、基本方針に基づき、発生源別の削減目標量、削減目標量の達成の方途等に係る総量削減計画を策定して必要な措置を講じ、また総量削減計画に基づく総量規制基準を設定することとされています。

昭和55年度以降、愛知県は7次にわたり総量削減計

画を策定し、その取組によって段階的に汚濁負荷量を削減してきました。しかし、伊勢湾においては、未だ環境基準の達成・維持が図られておらず、また、大規模な貧酸素水塊が発生していることなどから、引き続き汚濁負荷削減等の各種対策を推進する必要があるとして、国は平成28年9月30日付けで第8次の基本方針を定めました。このため、本県では同方針に基づき、平成29年6月27日付けで、第8次水質総量削減に係る総量削減計画を策定し、総量規制基準を設定しました。

第8次総量削減計画においては、これまでの対策を引き続き推進し、目標年度である平成31年度において、削減目標量を達成するよう取り組んでいきます。さらに、基本方針に基づき新たに第8次総量削減計画に規定した、貧酸素水塊対策としての窪地の埋戻し、港湾等における生物共生型護岸等の環境配慮型構造物の採用、NPO、漁業者、民間企業等の多様な主体との連携・協働の取組を推進します。

第8次総量規制基準は、国が定める範囲内において、事業者が遵守可能な値となるよう、事業場の排水水質の実態を踏まえて設定しました。第8次総量規制基準は、平成29年9月1日から新增設分において適用開始となっており、平成31年4月1日からは既設分を含めて全適用となります。

### ～第8次総量削減計画で実施する施策の内容～

- ① 生活排水処理施設の整備等  
下水道、農業集落排水処理施設等の整備、合併処理浄化槽への転換促進等を進めます。
- ② 総量規制基準の設定  
指定地域内にある、日平均排水量50m<sup>3</sup>以上の特定事業場に対して、排出されるCOD、窒素含有量及びりん含有量に係る汚濁負荷量の規制基準を設定し、その遵守を徹底します。
- ③ 総量規制基準の適用されない事業場に対する指導
- ④ 農地からの負荷削減対策
- ⑤ 畜産排水対策
- ⑥ 環境教育、啓発等
- ⑦ 海浜、干潟等の保全、干潟・浅場の造成及び窪地の埋戻し
- ⑧ 環境に配慮した護岸等の整備  
港湾等における新たな護岸等の整備や既存の護岸等の補修・更新に当たっては、生物共生型護岸等の環境配慮型構造物の採用に努めます。
- ⑨ 多様な主体との連携・協働の推進  
三河湾環境再生パートナーシップ・クラブ、水循環再生地域協議会等における連携・協働の取組を推進します。
- ⑩ 中小企業者等への助成措置

### 第8次総量削減計画における発生源別の削減目標量

単位:トン/日

	COD		窒素含有量		りん含有量	
	削減目標量	H26年度実績	削減目標量	H26年度実績	削減目標量	H26年度実績
生活排水	40	43	26	27	2.0	2.1
産業排水	25	27	13	13	1.1	1.2
その他	9	9	18	18	1.3	1.3
合 計	74 (6.3%)	79	57 (1.7%)	58	4.4 (4.3%)	4.6

(注) 1. その他は、畜産、水田や畑等の農地、山林等による負荷量 2. 削減目標量の（ ）内は、平成26年度実績に対する削減率

「水質総量削減」Web ページ : <http://www.pref.aichi.jp/0000047072.html>



\*\*\*\*\*

## 「私の趣味」

東亜環境サービス株式会社 武藤 鉦一

\*\*\*\*\*

私は昭和32年8月1日生まれです。今年、還暦を迎えました。私の趣味ということで執筆の依頼を受け、考えた末、一番長く続けているゴルフを紹介させていただくことにします。

ゴルフは30年前、ちょうど30歳の頃からよくプレーするようになりました。仕事で取引している方に誘われたことがきっかけです。ゴルフコンペを開催するので参加してみないかと誘われ、興味が少々あったので参加させていただきました。

それまで友人とたまにゴルフをしたことはありましたが、会社関係の方の集まりでプレーするのは初めてでした。家の近くに同級生が経営する練習場があり、そこで皆様に迷惑をかけないように練習しました。また、失礼のないようにゴルフマナーも勉強し、何とか参加しました。コンペ前日は緊張してあまり眠ることができませんでした。

当日は天気も良く、ゴルフ日和で、同伴者にも恵まれて楽しくプレーできました。同伴者の人たちとは仕事の話やプライベートな話で盛り上がりました。結果は、ブービー賞でしたが、参加した人たちには、初心者としてはよくやったと褒めていただいたことを覚えています。このコンペは、30年経った現在も年1回参加しています。私のゴルフ人生のスタートであったと思います。



さあスタート(左から 妻・私・友人)

私の妻も私に続いてゴルフを始めました。中村区の社会教育センターにゴルフ講座があり、妻はそこへ通い、現在でもゴルフの指導をしていただいている青山先生に出会うことになりました。先生は全日本アマチュアチャンピオンになった人です。妻は熱心に通い上達していきました。今は私も妻と一緒に、先生の経営する青山ゴルフへ行き練習をしています。

青山ゴルフは中村区本陣にある小さな練習場ですが、

もう25年間通っています。その間多くの人と出会い、人生の勉強をさせていただいています。上は80歳前後の人から下は小学生と幅広い年齢層の方々が練習しています。ゴルフのよいところは年齢に関係なくプレーができ、会話もできることです。

通い始めた当時はゴルフ場を予約することも難しかったのですが、青山先生の紹介で三重白山ゴルフクラブの会員になり、夫婦二人でプレーすることもできるようになりました。ここでは白青会という名のコンペが年6回あり、毎回20人ほど参加して開催していました。コンペに夫婦で参加していたことは楽しい思い出です。



白青会コンペにて

このコンペで、私のゴルフ人生30年間の中で1回だけ、ホールインワンを達成しました。ボールがカップインするところは見えませんでした。それだけが残念です。その晩は夫婦で乾杯しました。白青会のコンペでは、妻が3回、私が1回優勝したことを覚えております。妻の方がスイングも安定していて、綺麗なフォームで打つことができていたのです。私は先生の教えどおりに打つことが難しく、自己流のフォームがなかなか改善できませんでした。現在も綺麗なゴルフスイングができるよう努力しています。

この30年の間には、腰を痛めたことや冷え性、体調不良で5年間ゴルフができない時期もありました。練習すらできない日々はとても辛かったです。このままゴルフをやめようと思ったことも何回かありました。

治療していただいた接骨院・整体・病院を数えると20カ所程に上ります。これもなんとか夫婦でまたゴルフがしたい一心で乗り切り、2年ほど前に復活することができました。またゼロからの出発でしたが、あせらず、青山ゴルフにて夫婦で練習をして、ゴルフ場でプレーしています。

2年前より私が通っていた床屋さんとその友人が仲間になり、私たちと一緒にゴルフを楽しんでいます。お二人とも72歳で、私より一回り上です。少々健康に問題をかかえているようですが、元気に素晴らしいプレーをしています。ラウンド中には、若い頃の仕事の話や家族の話、

また最近の話題等、話がはずみます。私がゴルフ場を予約するのですが、連絡をしないと今度はいつプレーするのかと電話をかけてくださるほど、本当にゴルフが好きなお二人です。いつまでも4人でプレーしたいと思っています。



グリーン オン！

今年、60歳になり、第2の人生がスタートしました。ゴルフがもっと上手になりたいという気持ちは、若い頃と変わりません。いつもレッスンしていただいている先生がいることは心強いです。体力と筋力は低下していきませんが、日々のストレッチなどでカバーしています。60歳からのゴルフ人生は、長丁場と考えています。

健康のためにも、精進という意味でもリズムを刻みながら背筋を伸ばして、股関節歩行を続けることがゴルフ人生を完走するためには必要だと思います。ゆったりゴルフ場を歩き、四季折々の風景を楽しみ、リラックスし、ナイスショットをすれば、一日充実します。また、家に帰ってからの夫婦の晩酌は、何事にも代えられない幸せな時間です。

親しいゴルフ仲間が多数いることもこれからの人生で大切なことだと思います。私の夢はハワイでゴルフをすることです。夫婦で75歳まで一緒にゴルフを楽しみたいと思っています。

## 「環境に関する喚起標語」 募集のお知らせ

愛環協では、更なる発展と成長を目指し、平成30年度も喚起標語の募集を行います。多数の応募をお待ちしております。

### 【作品テーマ】

「ひと(技術者)づくり」

信頼性の高い環境計量証明事業は、分析測定技術者の人材育成に係っています。せっかく確立した知識や技術も先ず事業所内で継承されなければ協会の発展はありません。次世代の環境計量を担う技術者の育成を促すような喚起標語をお待ちしております。

### 【応募資格】

(一社)愛知県環境測定分析協会正会員事業所の社員(役員の方はご遠慮下さい)

### 【応募方法】

応募申込書に作品及び必要事項を記載の上、郵送、FAX、Eメールのいずれかでご応募下さい。

### 【応募締切】

平成30年1月26日(金)  
期限日必着にてお願いします。

### 【結果発表】

会報誌「あいかんきょう」  
135号(4月)にて発表いたします。



平成29年度標語

## 事務局からのお知らせ

### 【第2回共同実験結果検討会】

平成30年1月12日(金) 日本特殊陶業市民会館

### 【SOP研修会】

平成30年1月24日(水) 日本特殊陶業市民会館

### 【騒音振動勉強会】

平成30年2月15日(木) 日本特殊陶業市民会館

### 【特別企画セミナー】

平成30年3月20日(火) 日本特殊陶業市民会館

## 編集後記 (田村 励治)

河野会長と大村知事から新年の挨拶を頂戴して、さあ今年も頑張ろうと身が引き締まる思いです。

今年最初の「あいかんきょう」は、表紙に雪の白川郷の写真を採用しました。寒そうな表紙とは裏腹に、内容はご覧の通り活気溢れるものとなりました。お忙しい中、執筆して頂いた方々のお蔭です。お礼申し上げます。

今年も皆様の活動や情報を判り易く伝えて参りますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

### 発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会

〒460-0022 会長 河野 達郎  
名古屋市中区金山1-2-4 アイディエリア405号  
TEL・FAX : 052-321-3803  
E-mail : aikankyo@nifty.com

### 編集 (一社)愛知県環境測定分析協会 広報委員会

委員長 : 林 辰哉  
副委員長 : 豊田 豪  
委員 : 市川ゆかり、糸魚川 広、大場 恵史、  
近藤 賢、田村励治